

〇ー1番 要約

(平成26年6月現在)

1 被害者

平成7年生。接種時高校1年生（16歳3ヶ月）。聴取時19才。

2 ワクチン接種前の健康状況等

健康（中3時、高1の1学期の欠席日数0日）。幼稚園の頃から10年以上ピアノ継続。

3 ワクチンの接種状況

サーバリックス（3回：H23.8.16、H23.10.15、H24.2.25）

4 経過概要

平成23年 8月16日 かかりつけ医のA医院にて1回目の接種

同月頃 これまでにない生理痛、1回あたりの出血量にばらつきが生じる。

10月15日 2回目の接種

10月23日 右足首の腫れ

10月26日 右膝→左膝→右肩→左肩と関節の痛みが次々と生じる

10月31日 右手の痛みでペンも握れず、両膝の痛みで歩行困難となる。

B医院受診。レントゲン等でも原因不明。痛み止めと湿布をもらう。

11月 8日 前夜に右手に違和感、右手の痛みで起床。手首、指、膝の腫れ。

関節リウマチを示唆され血液検査を行う。

11月9日 膝を曲げるとコリコリする。右顎が痛む。

11月12日 両膝、右顎、右手首、両肩に痛み。血液検査で関節リウマチと診断。

11月15日 右手の腫れは治まるが膝の痛みは酷く腫れも生じる。

11月17日 注射器で右膝の水を抜く（黄色く濁った水）。通学が困難。

11月28日 C総合病院検査入院、若年性関節リウマチと診断。

～12月6日 小児慢性特定疾患の申請

12月頃～ 月に一度通院。抗リウマチ薬による治療を行うが病状は改善せず。

平成24年 2月 食事とトイレ以外はほぼ寝たきり状態。

2月25日 3回目の接種

3月7日～ 生物学的製剤（アクテムラ）投与のため入院

4月以降 少しずつ通学可能

5 症状

第2回接種8日後から両足首、両膝、両手首、両肩、顎、指の痛み及び腫れ。

痛みから歩行困難、食事困難、ほぼ寝たきり状態となる。

6 現在の状況

月に一度の生物学的製剤（アクテムラ）の投与、検査、診断により症状が改善し、平成26年4月からは、看護学校に進学。しかし、免疫力低下（副作用）により常時マスクを着用し、肝機能数値も上昇している。

7 救済制度の申請

申請していない。

〇－1番

(平成26年6月現在)

1 はじめに

私は、平成7年生まれの19歳です。子宮頸がんワクチンを接種してから、特に全身を耐えがたい痛みが襲うようになり、関節型若年性突発性関節炎（若年性関節リウマチ）と診断されました。現在は月1回の生物製剤投与等の治療により（このことによる副作用については後述します。）、なんとか症状は落ち着きをみせ、この春から看護学校に通うことができています。しかし、それまで健康であった私の身体は一変し、苦しく辛い思いをしています。また、将来のことを考えると不安でたまらなくなります。

以下、私の身体に起きた事についてお話ししたいと思います。

2 子宮頸がんワクチンを接種する前

私はワクチンを接種する前までは健康面で特に問題はなく、中学3年生の時には皆勤賞をもらうほどでした。ピアノは幼稚園の頃から10年以上続けており、高校に入学した時には、音大への進学を目指していました。

3 子宮頸がんワクチン接種に至る経緯

平成23年4月、私が高校1年生の時に、自治体から子宮頸がんワクチンの案内文書と問診票が自宅に届きました。8月には広報紙にてワクチンの準備が整った旨の案内があり、3回接種するには半年程度必要である事、助成は翌年の3月末までであり、その後の助成は未定であるため、接種希望者は早期に接種するようとの内容が書かれていました。

学校の友達も受けると言っていたことや、「これさえ打てば子宮頸がんにはならない。」「無料接種で1つのガンになる可能性をなくせるのはすごいことだ」と思い、私も受ける事にしました。むしろ当時は「打たないとダメだ」くらいに思っていました。

インフルエンザワクチンと同じようなワクチンと認識しており、副作用があることや、ワクチンの効果が限られていることなどは全く知りませんでした。

4 ワクチンの接種と症状経過

(1) 平成23年8月16日、子どもの頃からのかかりつけ医のA医院で、サーバリックスの1回目の接種を受けました。接種前に、医師からワクチンについての説明文書は交付されませんでしたし、口頭での説明もありませんでした。医師からは「筋肉注射だから痛い」ということだけ聞きました。

1回目の注射は非常に痛かったのですが、打たなければいけないと思っていたので、我慢しました。接種後1週間以上、患部が熱を持ち、腫れや、ジンジンする痛みが続きました。また、生理の時に頭痛、腹痛、腰痛、むかつきといった症状が重くなり、それまで生理時に痛み止めは飲んだ事はなかったのですが、飲まなければ我慢が出来ないほど酷くなりました。おりものの量も増えました。

(2) 10月15日の2回目の注射も、1回目と同様の痛みがありました。接種直後には特段1回目と異なるような異常はありませんでした。

しかし、2回目の接種から8日後、突然足首が腫れて痛み出しました。そしてその後、両膝、両肩、両手首と、次々と関節が痛み出したのです。

接種から17日後の10月31日には、右手の痛みでペンも握れなくなり、両膝の痛みから歩行が困難となりました。近所のB整形外科を受診し、レントゲン撮影もしましたが原因は分からず、痛み止めと湿布をもらって帰宅しました。

1週間が経過しても痛みは引かず、びっこを引いてようやく歩けるという状態でした。

- (3) 11月8日の朝4時頃、これまで以上の右手の痛みで目が覚めました。午後には右の手首や指が通常の倍近く腫れて太くなりました。再度B整形外科を受診したところ、初めて医師から関節リウマチの可能性を指摘されました。血液検査の結果から、関節リウマチと診断されました。

湿布や痛み止めをもらいましたが、これらは全く効果がありませんでした。

膝の痛みがあまりに強く、腫れも酷いため、注射器で膝の水を抜いてもらったところ、黄色く濁った液体が出ました。

薬が全く効かず、耐え難い痛みと、自分の身体がどんどん変わっていくことに非常に恐怖を覚えました。

- (4) 11月24日、C総合病院のリウマチ科に転院しました。そして、同月28日から12月6日まで、入院し、若年性突発性関節炎（若年性リウマチ）と診断されました。服薬治療を受け、月に一度通院するようになりましたが、病状は一向に良くなりませんでした。

家では食事とトイレ以外はほぼ寝たきりの状態となり、もちろん通学することもできませんでした。痛みで腕が曲がらず、一人で洋服を着替えることもできません。ボタンをかけることもできません。手首の痛みでお箸が使えません。食事は、フォークを使って何とかできる状態です。そのフォークですら、金属の物は重くて使えないため、プラスチック製のものを使用しました。ガラスコップも同様に持つことができず、プラスチックのコップを使用しました。顎が痛み、口が開かず、食べ物を口に入れるのも大変でしたし、食べる意欲もなくなりました。体重が5kgも減りました。

両手首が痛み、お風呂で身体を洗うことも、髪を洗うこともできません。

全身が痛み、ベッドから起きあがれないときは、母が身体を支えて起こし、トイレまで抱きかかえられるようにして行きました。寝返りもままなりません。

- (5) このような苦しい症状が続き、服薬治療では効果がでないため、主治医と相談し、春休みに入院をして生物学的製剤を試すことにしました。

主治医からは、生物学的製剤の投与を開始するとワクチン等の接種ができなくなるため、ワクチンを受けるのならば生物学的製剤の投与開始前にと言われました。当時は、ワクチンによってこのような状態になったとは思ってもよらなかったため、平成24年2月25日、3回目の注射を受けました。

そして、3月7日から9日までC総合病院に入院し、生物学的製剤の投与、治療を受けました。現在まで、毎月一度通院し、血液検査や尿検査、診察、生物学的製剤の点滴を行っています。

- (6) 幸い、最初に試した生物学的製剤が私の身体にあい、寝たきりの状態からは解放されました。それでも体調の悪い日は多く、毎日常に、膝や足首、手首、肩、首、顎など、どこかが痛みました。

母の送迎もあり、高校の2年次の4月から通学も徐々に可能になりましたが、高校3年の2学期までは体調の悪い日も多く、欠席することも多々ありました。

寒い日はリウマチ特有の「朝のこわばり」の症状があり、朝6時に起床してもベッド

から起きあがるのに時間がかかりました。手足の関節を温めないと動かすことができません。腕が首の後ろまで回らないため、制服の襟を出すことができません。身体が疲れやすく、疲れると症状が悪化し関節の痛みが酷くなりました。また、手首が痛むときはペンが握れないためノートが取れません。試験を受けられないこともあり、勉強に支障が出ました。遠足や体育大会などの学校行事に参加できないこともありました。

そんな中、高校の先生や友人は、私の症状に非常に理解を示して下さいました。教室移動が少ないように調整して下さいたり、洋式トイレを使用できるようにして下さいたり、廊下に手摺りやスロープを設置して下さいたり、保健室でのテストの実施、レポート提出での単位認定等、様々な配慮をして下さいました。そのおかげで、平成26年3月、なんとか無事、卒業することが出来たと思っています。

5 現在の症状

現在、毎月一度通院し、血液検査や尿検査、診察、生物学的製剤の点滴を行っています。生物学的製剤による治療の効果が少しずつ出始め、症状は落ち着くようになりました。それでも、身体のいずれかの関節が痛み、また、非常に疲れやすい状態です。

生物学的製剤の投与により、免疫機能がおさえられているため、感染症に非常にかかりやすくなりました。また、一度かかると肺炎など重症化しやすく、実際に肺炎になったこともあります。そのため、外出する際はマスクをしなければならず、とても息苦しい思いをしています。肝臓の数値が悪くなったり、抜け毛が多くなったりもしています。

そして、何より将来のことを考えると不安で一杯です。

現在、症状は落ち着いていますが、関節リウマチは完治することのない病気であり、生物学的製剤が一生治療に効果があるものでもありません。薬が効かなくなると別の新しい生物学的製剤に切り替えねばならず、そのためには必ず入院治療が必要となります。場合によっては、全ての生物学的製剤が私に効かなくなることあるかもしれません。また、使用している薬は奇形を発するため、薬の投与を継続している限り妊娠・出産は望めません。治療費は毎月一度の通院につき、検査と点滴で最低10万円が必要です。

私は、身体中の関節の痛みには耐えながら、感染症の恐怖に怯えながら、マスク姿への周囲の視線や不自由さに耐えながら、一生過ごさねばなりません。そのうえ、経済的負担も多大です。現在は、小児慢性特定疾患が認められているため、一部の負担ですんでいます。しかし、来年20歳になればこれが認められず、健康保険での3割負担の支払となります。精神的、肉体的苦痛以外に、経済的苦痛まで生じることとなります。

6 最後に

大好きなピアノを弾き、音大への進学を夢見て高校に入学しました。それがワクチンを接種したことにより、2学期には、私の身体も生活も夢も一変してしまいました。

平成25年4月9日の朝日新聞の記事を読み、ワクチン接種と発病の時期が近いことに気付きました。子宮頸がんワクチンが原因でこのような身体になってしまったと思っています。

私は自分がりウマチという病気になったことで、将来看護師になり、同じように病気で苦しむ方々のお役に立ちたいという思いから、看護学校へ進学しました。しかし、毎日の通学は思ったよりも大変で、帰宅すると疲れて横になってしまうこともあります。また、授業や実習では体力を使うことも多く、無事に卒業できるのか不安です。

天気の悪い日や寒い時期は関節の痛みが強く、未だに膝や手首も腫れますが、学校を休むわけにはいきません。そのような日は本当に辛く、病気の自分を思うと悲しくなります。このように、毎日ぎりぎりの体力で通学しているような状態です。

もう、私の健康な身体は戻ってきません。

学校では、ワクチンを打った後に生理が重くなったという友達が多くいました。関連性は分かりませんが、別の学年にも、若年性関節リウマチに罹患した方がいます。主治医の先生からは若い女の子でリウマチが最近増えていると聞きました。

私のような被害者をこれ以上出して欲しくありません。私と同じような被害者が他にいないかどうか、ワクチン接種者全員の追跡調査を強く望みます。

そして、一日も早くこの問題を解決し、救済してくださるよう望みます。